



令和3年度
福島小学校だより

ふくしま

第6号 7月 7日
八女市立福島小学校
校長 安達 浩文

夏休みが目の前です

あと2週間ほどで夏休みが始まります。今年は早めに梅雨が明ける地域が多く、平年より暑い時期が長くなり、暑さのピークが7月下旬と8月下旬の2回あるという予報も出ています。コロナ禍でもあるため子どもたちは家の中で過ごす機会が増えてしまうかもしれません。ちょっと古くなりますが、5月12日付けの西日本新聞に以下のような記事が載っていました。

「問題あり」4人に一人

久留米市は「ゲーム依存度自己診断テスト」で、市立小中学校児童生徒のゲームの遊び方を調べた。その結果、遊び方に問題のある子が4人に1人いたという。

「気がつくと長時間ゲームをしている」「家族や友達と過ごすより、ゲームを選ぶことがある」などの設問への回答を低・中・高の依存傾向に分けた。問題のある「中」以上が、小中学生とも約25%いた。ゲーム障害に詳しい、のぞえ総合診療病院の堀川公平院長は「コロナ禍でゲーム以外を見つけにくい状況にある。1日2時間以内を目安に上手に遊んで」と助言し、「ゲームそのものではなく、子どもの生活環境に気をつけてほしい」と指摘する。 一部省略

本校でも『子どもとネット(ゲーム)』に関わることについていくつかの課題を感じています。まず、オンラインゲームによる生活への悪影響です。最近ではSNSや無料通信アプリを利用したゲームが増えてきています。これらの多くは、いつでもゲームに参加でき、友達とつながっている気分を味わうことができ、ストーリーに終わりがいいから時間を忘れてゲームにのめりこんでしまい、朝起きることができないということも起こっています。また、ゲームをしていなくても攻略法をYouTubeで長時間視聴していることもあるようです。「子どもは寝ていると思っていたら布団の中でゲームにのめりこんでいた」ということはないでしょうか。子どもたちをゲーム依存にはしたくありません。

子どもとネットの世界を考える



次に、ゲームを通しての通信機能です。「スマホや携帯は与えていない」と思っているにもかかわらず、参加している全員と会話ができ、しまいます。「親が知らないうちにずっと友達と会話していた」そんなことはないでしょうか。

スマホやタブレットは非常に便利な道具です。しかし、使い方を間違えると生活習慣の乱れや友達関係のトラブルを引き起こす危険性もあります。そのことを、われわれ大人が子どもたちにきちんと伝え、子どもたちの生活を守っていく必要があると感じています。もうすぐ始まる夏休み、子どもたちの生活習慣が乱れず、健康で充実したものになることを願っています。

(「子どもとネットの世界」については、次号でも引き続き考えたいと思います)

5年生 集団宿泊訓練 無事に終わりました

先月の24日(木)～25日(金)5年生は、福岡市にある「海の中道青少年海の家」に集団宿泊訓練に行ってきました。現在は2週間ほどが経ちましたが、子どもたちに発熱等の症状も見られずホッとしています。



当初予定していたカッター(注)訓練は、密接・密集になるので施設から許可が下りず、代わりに野外炊飯を行いました。安全対策のため多数のインストラクターがついて下さり、スムーズに調理ができました。ただ、後片付けは、調理器具に洗い残しがあったり、道具が足りなかったりして何度もやり直しをさせられるグループもありました。宿泊棟や食堂・風呂場では、他の団体との接触もなく安心して過ごすことができました。天候にも恵まれ、晴れてはいましたが、涼しく熱中症も心配したほどではありませんでした。充実した表情で子どもたちは帰宅したことでしょう。この集団宿泊訓練で最も良かったことは『5年生全員がそろって参加し、何事もなく帰って来られたこと』です。保護者の皆様には、準備等大変お世話おかけしました。また、バスの出入りの際に車の誘導等、安全確保にご協力いただいた保護者の皆様には心より感謝申し上げます。



(注)カッターとはカッターボートのことで、オールを使って漕ぐ訓練用のボートの事です